

国立大学法人
宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

UU ユウ・ユウ・ノウ now

NITORI STUDIO
SOFA



株式会社
ニトリホールディングス
代表取締役社長
Toshiyuki SHIRAI
白井 俊之

OB.OG. INTERVIEW

株式会社 ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之
飽くなき「挑戦」が人も企業も成長させる

特集1 地域デザイン科学部が目指す教育Ⅱ

特集2 謎の物質 ストリゴラクトン—その秘密を解き明かす—

CONTENTS

- 8 Welcome to 授業
- 9 Welcome to 研究室&ゼミ
- 10 研究keyword / 私の学生時代
- 12 UU News
- 14 宇大生は今!
- 15 ホームカミングデー
- 16 INFORMATION



飽くなき「挑戦」が人も企業も成長させる

OB. OG. INTERVIEW

株式会社
ニトリホールディングス
代表取締役社長
Toshiyuki SHIRAI
白井 俊之

PROFILE
北海道出身。1979年宇都宮大学工学部環境化学科（現 応用化学科）卒業。同年ニトリへ入社し、89年物流部ゼネラルマネージャー就任。店舗運営部ゼネラルマネージャー、組織開発室長を経て、2001年取締役へ。04年常務取締役、10年ニトリホールディングス発足と同時に、取締役専務執行役員就任。同年ニトリ取締役専務執行役員、14年ニトリホールディングス代表取締役副社長およびニトリ代表取締役社長就任。16年ニトリホールディングス代表取締役社長就任へ

株式会社ニトリホールディングス代表取締役社長、白井俊之さん。グループ全体の従業員3万人、取引先は4000社以上。株式時価総額が1兆5千億円を超える大組織を先頭に立って牽引するリーダーです。学生インタビューに対し若手世代への思いを真摯に語るその姿に、改革をグループの先頭に立って進めていく経営者としての姿が垣間見えます。また本学OBとして在学当時の思い出話をこやかに話していただき、白井社長が本学同窓生の一員として非常に身近に感じられる場面もありました。その他、ニトリ入社から現在に至るまでのエピソードなど、話題は多岐にわたり非常に盛り多いインタビューとなりました。

【インタビュー／工学部応用化学科4年・岡田愛未羽、地域デザイン学部コミュニティデザイン学科1年・大森悠司】

■ 人との繋がりがから多くを学んだ大 学時代

白井さんは北海道札幌出身。ご実家は商売をされていたとのこと。なぜ宇大に入学されたのですか？

「いつかは家業を継ぐことになるわけですが、それなら一度北海道を出て外の空気を吸いたかったし、いろいろなことを見て、経験してから北海道に戻ろうという思いがありましたね。海の近くで育ったし今度山は近くもいかなと（笑）。やはり宇大に縁があったのかな」

工学部を選んだのはなぜですか？

「暗記するのはあまり得意じゃなかったんです（笑）。数学とか物理とか、理系の科目に関心がありました。環境化学（現応用化学科）を選んだ理由は、当時公害問題に関心があり、そういったことを勉強して社会の役に立ちたいという一種の正義感のような思いが一つの理由かと思えます」

大学時代影響を受けた先生や印象に残る授業などはありましたか？

「勉強はそれほど真面目にしませんでしたが（笑）、当時在籍していた研究室の先生は濱島求女先生（故人）という先生で、その濱島先生と助手の先生には本当にお世話になりました。実はその助手の先生は、現在わが母校の教授として大活躍されていますよ。（※現工学部研究科木村隆夫教授）卒業研究の時期は、やはり理系なので研究室にもりきりで実験に没頭していました。長時間にわたり、終了が夜中や早朝になることもありましたが、サークルは軟式野球と探鳥会に所属していました。アルバイトは家庭教師が

■ 皆さんの将来の可能性は無限定

最後に、本学の後輩に向けたメッセージをお願いします。

「自分の可能性を狭めないでほしいですね。大学時代に身に付ける知識・能力はほんの限られたものであり、その知識や能力を身に付けるためのプロセス、経験がその人の大きな財産だと思います。私も大学時代の専攻とはまるで異分野の事業に取り組んでおり、当社にも家具小売



白井社長に取材するインタビューー岡田さん（右）と大森さん

ら引越し、飲食店、雀荘のスタッフなど、今の白井さんからは想像もつかないような様々な職種を経験されたようですね。

「本当に古き良き時代でしたね。先輩後輩やアルバイト先で出会った人たちとの交流が私の財産です。いろいろなことを経験したことが、今、役に立っている。人と人との繋がりがから多くのことを学びました」

■ 「がむしゃらに働き」仕事を通して成長した

今から40年ほど前、倉庫係からスタートし、20代で店長になられたとか？

「『日本一を目指す』。創業者似鳥昭雄氏から聞いたこの言葉が、ニトリ入社の決め手となりました。入社した当時のニトリはまだ「ニトリ家具」と名乗っており、今では考えられないほど小さな会社でした。入社当時はともかくがむしゃらに働いていました。おかげさまで20代で店長に昇格させていただきました。仕事が本

業界とは全く異なるバックボーンを持ちながら入社してきて、成功を取めている社員も多数おられます。しっかりと学業に取り組んで課題解決のための正しい努力の方法を身に付けておけば、どんな分野においても成功を取める土台はできているようにも思います。宇大生の皆さんはそういった意味で可能性は無限定ですから、様々な分野で大活躍していただくことを心より期待しています。がんばってください！」

◆ 取材を終えて

工学部応用化学科4年
岡田愛未羽

初めてのインタビューで緊張しましたが、白井社長の柔らかい雰囲気のおかげで楽しくお話しすることができました。会社のあり方や社会人としての心構えなどを分かりやすく話してくださり、大変勉強になりました。来年の春から新社会人となるので、今回の経験を糧に挑戦を続ける人でありたいと思います。

地域デザイン学部
コミュニティデザイン学科1年
大森悠司

今回取材する方は一部上場企業のトップの方であり、インタビューが始まる前は緊張していましたが、実際にお会いしてみると、とても優しく、ユーモアあふれる方で、気づいたら緊張が解けていました。白井社長がお話しのときに、インタビューの目を交互に見ながらお話をしてくださっていることがとても印象に残りました。



学生時代のアルバムを見ながら思い出を語る白井社長

現在、似鳥昭雄会長とともにニトリグループを率いるリーダーとして重責を担う立場にあります。グループのトップとして日々感じていることなどをお聞きしたいのですが。

■ 常に挑戦し続けるために

「特にこの時期、社内でも多様な業務・ミッションをこなしたことが今に繋がっていると感じます。改めて振り返ると、自分は仕事の中で成長させてもらったという感覚があります。またマネジメントの実際においても、現場・売り場の感覚を知ることというのは今でも実践しています。データとして上がってこない部分は常に売り場の現況を把握しながら判断することが多いです」

「やはりこれだけの規模の企業ですから、お客様を始め企業を取り巻く様々な方々への重大な責任があります。また事業の継続性を確保し、次の世代にどのようにバトンタッチするかということも非常に重要です。こういった責任を果たしていくため、我々は常に挑戦し続けなければなりません。好調な業績を維持しているような時にはチャレンジングな行動が難しくなってしまうがちです。問題点を指摘する声はかき消され、失敗を恐れて挑戦することを躊躇してしまう。そして転落につながるような綻びは、往々にして業績が好調な時に発覚します。チャンスとピンチは必ず一緒に来るといわれています」

「また、組織の巨大化により様々なルールが増えますが、ルールを遵守することが目的化してしまい、チャレンジングな行動を阻害する要因になります。業績が好調な時ほど、組織が大きくなればなるほど意識して変革に向けた行動をとっていかねばならないと考えます」

「そうした取り組みの一つとして、3年前から『未来会議』という会議をスタートさせました。普段の業務から離れ、ニトリの未来についていろいろな世代の社員が自由に議論する場です。時には上司の批判が出ることもありますが（笑）、自由に議論してもらっています。『チャレンジ店舗』という取り組みもあります。新しいアイデアによる企画を応援する取り組みです。現状のルールが決して正しいわけではないということを意識させるため、様々な取り組みを行っています。このような取り組みを通して、次代のニトリを担う世代が育ってくれることを願ってやみません」



【取材：岡田愛未羽、大森悠司／写真撮影：木原悠策】

「地域デザイン」科学部が目指す教育Ⅱ

地域デザイン科学部の「地域対応力」養成のための教育プログラムで重要な科目と位置づけられている「地域デザイン訪問」の授業が始まりました。コミュニティデザイン、建築都市デザイン、社会基盤デザインなどの各学科ごとに地域のフィールドに出向き、そこで聞き出したこと、感じたことを3学科混成グループでディスカッションします。学内外から注目されている「文理融合」による「地域デザイン能力育成」の学びについて池田裕一教授に聞きました。

◆近い隣に、新しい世界がある

「地域デザイン」という分野は、単に大学の中での勉強だけで終わりにしてはいけない学問分野で、実際のモノの広がり、コミュニティの広がりというものを目の当たりにして、その経験をイメージしながら勉強していくことが非常に大事なのではないかと考えています。

理系の建築都市デザイン学科、社会基盤デザイン学科に関しても、教室の黒板に橋や建物を描いて「計算式はこうですよ」と説明を受け、それで「わかりました」ではなくて、実際に地域に出て建造物等を目の当たりにすることで「こんなに大きなものをつくるのか」「こんなに細かいところにまで気を遣うのか」というようなことを実感し、意識する。あるいはコミュニティデザイン学科の学生が地域の人と会い、コミュニケーションを図ることによって「こんな具合に、みんなに困った人がいるのか」というようなことを認識することがとても大切なと思います。

ということ
を、地域社会
のコミュニティ
イ施設、技
術、歴史、対
策などに直接
触れる経験を
通してきちんと認識する。それを踏まえ、
2年次は自分たちが抱えて立つ専門につ
いてそれぞれの学科で勉強していく。そ
ういうモチベーションを持ってもらうこ
とがこの授業の目指すものの一つです。
3年次には「地域プロジェクト演習」
という授業で再度、3学科の学生が一緒
になって実際に地域の問題を解決するグ
ループワークに取り組みることになりま
す。地域デザイン能力育成の端緒として
この科目が位置づけられています。



また、地域デザイン科学部は文理融合の共通科目の学びから総合的な視野を養うことを目指していますので、それぞれの分野で関心のある場所を見学しただけで終わりにせず、そこで聞き出したことを3学科混成グループによるディスカッションを通して共有することで、この授業は成り立ちます。ある人が聞き出し感じたことを他人事ではなく、自分の事として考えられるようになることを目指しています。

学科混成のグループワークでは、モノを見る目を養って欲しいと考えています。実際に自分が見に行ったモノを見る目。あるいは自分ではない誰かが見に行つて話してくれたことを見る目。「みる」にはいろいろな意味があると思います。

自分が見るといことは、やはり自分の関心がいったモノについて見ているわけです。違った見方をする学生とのグループワークの中で自分が見落としていたこと、見過ごしていたことに気づかされる。それと同時に、他の人の話を聞いて自分が関心を持っている世界の限りなく近い隣に新しい世界があることを知る。そのような中でモノを見る目が広がっていくことを期待しています。

グループワークには必ずコミュニケーションがありますから、前期の科目「コミュニケーション演習」で学んだスキルが、この授業に活かされてくると思います。最終的にはディスカッションの結果をポスター発表という形でプレゼンテーションすることになっていきますので、ある意味、合意形成の練習にもなるのではないかと考えています。



3学科混成のグループワーク



◆平野優麻 (社会基盤デザイン学科1年)

ダムにしても浄化センターにしても小さい時から当たり前にあるものと感じてきました。実際に足を運んで、そこで人がどんな思いで動いているのかを聞くと、インフラを支える人が絶対に必要だということを感じました。将来インフラを支える人材になるのであれば早い段階で、そういうことを知る機会を持つことはとても良いことだと思います。文系と理系で勉強している科目は違いますが、最終的に向かう方向は「人の暮らしを支える」というようなことと同じだと思います。いろいろなる人の考えを擦り合わせるの面白さ、文理融合はこれから絶対に必要な学びだと感じています。



◆赤川英之 (建築都市デザイン学科1年)

奥日光の旧外国大使館別荘や大谷石の地下空間など、ふだんなかなか行かない所に目を向ける機会を与えてもらえたことが良かったです。建築というと東京など都会に目が向きますが、地域の良い所を発見できましたので、地域に根ざした建築活動ができるよう、あまり目を向けていなかった地域の細かな部分や歴史、文化なども授業を通して学びたいと思っています。



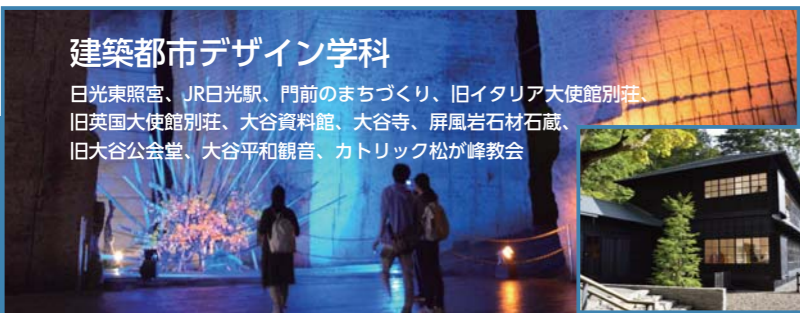
◆小松友広 (コミュニティデザイン学科1年)

道の駅を見学しましたが、周辺住民との関わりや地域のニーズに配慮することを大切にしているのだと強く感じました。この授業の中で、そのような地域の人たちの思いを汲み取っていきけるような力を身につけていければと思っています。

グループワークはダム建設がテーマで、理系の学生は構造などの話をしますが、私が気になったのはダムの活用のされ方や周辺の人への影響です。理系はハード面、文系はソフト面に目が行きやすいことを再認識できて面白かったです。技術的な面と地域住民のニーズを繋ぐようなことが将来の自分の仕事のひとつになるのかなという思いをしました。



コミュニティデザイン学科
道の駅「川場田園プラザ」(群馬県)、
道の駅「もてぎ」、「うつのみやろまんちっく村」



建築都市デザイン学科

日光東照宮、JR日光駅、門前のまちづくり、旧イタリア大使館別荘、
旧英国大使館別荘、大谷資料館、大谷寺、屏風岩石材石蔵、
旧大谷公会堂、大谷平和観音、カトリック松が峰教会



社会基盤デザイン学科

湯西川ダム、川治ダム、五十里ダム、勝馬頭首工、
鬼怒川上流流域下水道、鬼怒川堤防決壊復旧箇所 (茨城県)、
国道408号道路改良工事





「ストリゴラクトン」、そのインパクトがあるネーミングに非常に惹かれるものがあります。まるで特撮映画の怪獣みたいな名前ですが(笑)、意味や由来はあるのでしょうか？」

「はい。ただ具体的な応用に向けての開発はこれからであり、研究はまだ緒に付いたばかりです」

「これで作物生産の増加と根寄生雑草の防除が両立できる可能性が出てきたわけですね。」

「ストリゴラクトン」は、植物と菌根菌との共生を促進し、植物の無機養分(主にリン酸)の吸収を助け、病気に対する抵抗力を高めるといった大きなメリットもあります。現在こちらのメリットを活用する方向でも研究を進めています。肥料や農薬の使用量低減に繋がるので、根寄生雑草防除と併せさらに研究を深化させていきたいと考えています」

「最後に、先生がこの研究にかける思いをお聞かせいただけますか。」

「ストリゴラクトンの活用は、これまで述べたとおり世界的に重要な研究テーマです。本学はこの分野において世界でも顕著

な実績を残しており、今後さらに大きな貢献ができる研究環境があると自負しています。根寄生雑草の被害は全世界に及んでおり、特にアフリカ諸国における被害には甚大なものがあります。こういった農業におけるグローバルな課題を解決するため引き続き努力していきたいですね」

「ここまでお聞きしてきて、先生の研究や「ストリゴラクトン」という物質が世界の食糧生産に大きな影響を与えるものだということが理解できました。今後の先生の研究グループの研究の方向性について教えてください。」

「ストリゴラクトンには、植物と菌根菌との共生を促進し、植物の無機養分(主にリン酸)の吸収を助け、病気に対する抵抗力を高めるといった大きなメリットもあります。現在こちらのメリットを活用する方向でも研究を進めています。肥料や農薬の使用量低減に繋がるので、根寄生雑草防除と併せさらに研究を深化させていきたいと考えています」

「最後に、先生がこの研究にかける思いをお聞かせいただけますか。」

「ストリゴラクトンの活用は、これまで述べたとおり世界的に重要な研究テーマです。本学はこの分野において世界でも顕著

な実績を残しており、今後さらに大きな貢献ができる研究環境があると自負しています。根寄生雑草の被害は全世界に及んでおり、特にアフリカ諸国における被害には甚大なものがあります。こういった農業におけるグローバルな課題を解決するため引き続き努力していきたいですね」

「ここまでお聞きしてきて、先生の研究や「ストリゴラクトン」という物質が世界の食糧生産に大きな影響を与えるものだということが理解できました。今後の先生の研究グループの研究の方向性について教えてください。」

「ストリゴラクトンには、植物と菌根菌との共生を促進し、植物の無機養分(主にリン酸)の吸収を助け、病気に対する抵抗力を高めるといった大きなメリットもあります。現在こちらのメリットを活用する方向でも研究を進めています。肥料や農薬の使用量低減に繋がるので、根寄生雑草防除と併せさらに研究を深化させていきたいと考えています」



「その重要な側面とはいったいなんですか。」

「植物の枝分かれのコントロールです。ストリゴラクトンには、植物の枝分かれを抑制する性質があります。植物の枝分かれは、植物が最終的に咲かせる花や種子、果実などの数を左右する非常に重要な因子です(「ストリゴラクトンの働き①」)」

特集2

謎の物質 ストリゴラクトン

「その秘密を解き明かす」

本 学バイオサイエンス教育研究センター米山弘一教授が、トムソン・ロイター社「Highly Cited Researchers 2016」に選出された。これは、21の研究分野において、世界で発表された論文の被引用回数トップ1%に入る、影響力の大きい研究者をリストアップしたものだ。世界の全研究分野で3000人余りが選出され、植物・動物科学分野においては世界で208名、日本で30名が選出されている。米山教授は2015年も選出されており2年連続の選出となる。

また、米山教授は卓越した先端研究領域において活躍・貢献が認められる研究者として、2012年2月、トムソン・ロイター社のリサーチフロントアワードにも選出されている。このような受賞の実績が示す通り、世界から非常に高く評価され、注目を集めている研究者である。そんな米山先生を中心とする研究グループが研究対象の中心としているのは、「ストリゴラクトン」と呼ばれる植物ホルモン。一般にはなかなか聞き慣れない物質だが、そのネーミングには強烈なインパクトがある。今回はこの「ストリゴラクトン」を中心とした米山先生の研究グループの成果について、わかりやすく解説していただいた。



米山 弘一 教授
Koichi Yoneyama
1976年東京大学農学部卒業。78年東大大学院修士課程修了。83年農学博士。97年宇都宮大学農学部教授。2012年リサーチフロントアワード受賞。15、16年の2年にわたりHighly Cited Researchers (高被引用論文著者) 選出

「単刀直入にお聞きしますが、この「ストリゴラクトン」という物質はいったいどんな物質なんでしょうか？」

「植物ホルモン的一种です。植物ホルモンは植物内部で分泌される物質で、植物の成長を左右する重要な物質です。これまで様々な植物ホルモンが発見されましたが、ストリゴラクトンは比較的最近(2008年)に植物ホルモンとして発見されました。当初ストリゴラクトンは、アフリカで農作物に深刻な被害をもたらしている雑草ストライガの種子発芽促進物質として発見されました。このストライガのような、植物の根に寄生して作物に被害を及ぼす雑草を「根寄生雑草」と呼んでいます。根寄生雑草は、植物から分泌されるストリゴラクトンを感じ発芽することがわかっています(「ストリゴラクトンの働き③」)」

「ということは、ストリゴラクトンをコントロールすることで「根寄生雑草」を発芽させないことができるわけですね。」

「そのとおりです。ストリゴラクトンは根寄生雑草の防除対策として非常に重要な物質です。一方で、ストリゴラクトンは植物の成長の別の重要な側面に関わっていることもわかってきました」

「植物の花の咲き方や、種子、果実の数を左右するということは、農業生産に大きな影響を与えていることではないでしょうか。」

「そうですね。食料作物やバイオマス原料となる作物の生産性を上げたり、栽培作業の効率化に繋がるのではと考えています。一方で、根寄生雑草の防除と関連して、別の課題も出てきました」

「それは一体どのような課題でしょうか。」

「ストリゴラクトンの発生を抑えると、根寄生雑草の発芽も抑えられ、雑草対策にはなるのですが、同時に枝分かれや菌根菌(「ストリゴラクトンの働き②」)。ストリゴラクトンによるもう一つのメリット※1)との共生にも影響を与えてしまうのです」

「なるほど。あちらを立てればこちらが立たずといった感がありますね。」

「この課題を解決するため、他大学との共同研究を通してストリゴラクトンが生成される前段階の物質であるカールラクトン酸メチルを発見しました。カールラクトン酸メチルはストリゴラクトンと同様、植物の枝分かれを抑制しますが、ストリゴラクトンよりは根寄生雑草の発芽を促進させる働きが弱いことがわかっていました」

◆グローバルな農業課題の解決に向けて

「ここまでお聞きしてきて、先生の研究や「ストリゴラクトン」という物質が世界の食糧生産に大きな影響を与えるものだということが理解できました。今後の先生の研究グループの研究の方向性について教えてください。」

「ストリゴラクトンには、植物と菌根菌との共生を促進し、植物の無機養分(主にリン酸)の吸収を助け、病気に対する抵抗力を高めるといった大きなメリットもあります。現在こちらのメリットを活用する方向でも研究を進めています。肥料や農薬の使用量低減に繋がるので、根寄生雑草防除と併せさらに研究を深化させていきたいと考えています」

Welcome to 研究室&ゼミ



教育学部 技術教育講座 戸田研究室

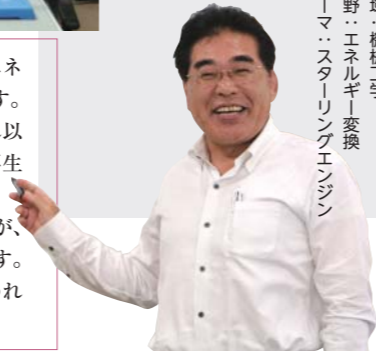
● 研究室概要

戸田研究室はスターリングエンジン作りを通して「教養を育み技術の光と影を理解できる人材を育成することである」と考えています。さらに技術的素養として新しい技術を利用、管理、評価および理解する能力を身に付けることです。

近年、我が国はものづくりからコトづくりに移行しています。単に優れた性能だけでなく、コンセプトやストーリー性、ユーザーエクスペリエンスなどの付加価値を想像でき、夢や目標を設定できる学生を育成しています。

戸田 富士夫 教授

専門領域：機械工学
専門分野：エネルギー変換
研究テーマ：スターリングエンジン



● 教員から

● この研究室では、工場や家庭などで無駄に捨てられている排熱、使い道のないと思われていた低密度のエネルギーを有効なエネルギーに変換することができる「スターリングエンジン」の研究を主な課題にしています。日本は資源が乏しい国です。資源というと、まず石油などの化石燃料を思い浮かべると思いますが、それ以外にも資源は多種多様にあります。日本に豊富に存在するバイオマス資源や太陽光など、環境にやさしい再生可能エネルギーを有効に活用できるのがスターリングエンジンなのです。

「技術」には光と影があります。例えば私たちが使っている電気は非常に便利で多くの恩恵を受けていますが、電気を生み出す火力発電所は大量の天然ガスや石油、石炭を燃やし、大量の二酸化炭素を排出しているのです。通常は光の部分しか見えないのですが、影の部分ではものすごいエネルギーが消費され、無駄な排熱が行われています。そういう技術の裏、影の部分に目を向けることのできる学生を育てたいと思っています。

● 学生から



学校教育教員養成課程
教科教育コース 技術教育専攻
4年 船山 元樹

● 工業高校の出身で、何に使えるか分からない一つひとつの部品が「技術」によって形になり、便利なものになるところに興味を持ち、技術のおもしろさを子どもたちに伝えたいと思い、技術教育を志望しました。

研究室ではスターリングエンジンで走るラジコンカーにマイクロコンピュータを搭載し、センサーで障害物を察知しながら自立走行させる研究をしています。スターリングエンジンは一つひとつの部品に少しでも重みや隙間があると動きません。部品の精度の高さが求められ、ものを作るうえで大切なことを学びました。大学入学後車に興味を持つようになり、卒業後はエンジニアとして車の製造に携わることになりますが、研究室で学んだことを活かしていきたいと思っています。



同 4年 松本 晃枝

● 先輩の卒業論文発表を聞いてスターリングエンジンの研究は未知の部分もあり難しそうだなと思ったのですが、ビー玉を使った研究などを見学しておもしろそうだと感じ、この研究室を選びました。元々数学に興味があったので、数学を使ってスターリングエンジンの性能を予測するプログラムの研究をしています。

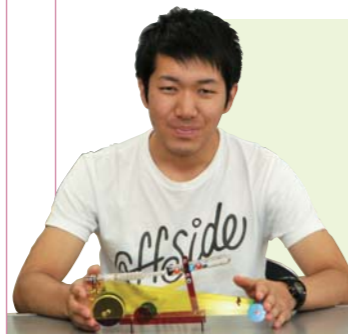
スターリングエンジンを製作するときに初めて3Dプリンタを使う機会があったのですが、とても貴重な体験でした。金属加工、木材加工、栽培などの領域の様々な技術に触れられることも技術教育専攻の学びの魅力だと感じます。先生と学生の距離が近く、戸田先生は私たちの質問に丁寧に答えてくれますし、時折冗談を言って笑わせてくれる楽しい先生です。



同 4年 示村 諒

● 戸田先生は「技術には光と影がある」という話をしますが、広島出身の私は、その言葉に「原爆」をイメージします。行き過ぎた科学技術が人を殺してしまうものを作ってしまったという強い思いが以前からありました。技術の負の部分や利用する側のモラルの問題を伝えられないか、というところから技術教育に興味を持ちました。

今はLEDの排熱を利用して動かすスターリングエンジンについて研究していますが、ものを作るということは集中力や忍耐力が必要であることがわかりました。仲間と大変な思いをしながら完成のために頑張る、そういう部分が身に付いたと感じていますし、研究以外にも親睦を深める機会が多く、卒業後の繋がりも生まれやすいとても仲の良い研究室です。



同 4年 佐藤 勇人

● 研究室ではスターリングエンジンを用いた「ビー玉エンジン自動車」を製作しています。私は教員志望なのですが、簡単な材料で作ることができるこのエンジンを教材化できたらいいな、と思いながら研究しています。

小中学生を対象にビー玉エンジンを作る講習会を開き、エンジンの作動原理を教える活動もしていますが、教材化するにはまだまだ研究しなければならない課題があります。数学が好きなので、いかにしたら一般の人でもビー玉エンジンを簡単に扱うことができるかの解析を担当しています。日常生活に数学がどう関わっているかということも教えられるようになればと思っています。

● 授業概要

生物化学では、体を形作る生体物質の構造と機能、そして特性を化学的な視点から学びます。食品や微生物機能、高分子化学など、より専門的な学問の基盤となる科目であり、本学科の必修科目として学科所属の全学生が受講します。

燕山 由己人 教授

研究分野：生物科学
細胞生物学

● 教員から



● 学生から

● 私は薬剤師になろうと思って薬学部を目指していたのですが、だんだんと製薬系に興味が出てきて、食品なども学べるということで応用生命化学科に決めました。またこの学科では同時に農業的なことも学べるので、自分の視野が広がると思いました。

自分の体の中は見られないのですが、学ぶことによってどのようなことが起きているのかを知ることができます。先生の授業はとってもおもしろいです。明るく私たちに接してくれるので楽しく学ぶことができます。高校の時嫌いだった科目でも好きになりました。



応用生命化学科
2年 阿久津 歩夢

● 最初は遺伝子関係に興味を持っていて、遺伝子組み換えなどを学びたいと思っていました。いまは微生物関係に興味があり、その道も考えています。この学科は少人数なので、学科全体で生徒と先生の距離が近いと思います。化学をやりつつ農業も学び、生物と化学を絡めて学べるところが良いと思いました。

授業は覚えるところが明確で、板書がとてもわかりやすく、すごく難しいことも先生は例えを用いて教えてくれます。誰の体の中にも起っていることが学べるので学問自体もおもしろいです。



同 2年 栗野 峻史



同 2年 加賀谷 優菜

● 元々食品とその機能に興味があり、幅広く学べるということで応用生命化学科を選びました。この学科は人数が少ないのでみんなで仲良く学べて、先生にも気軽に質問ができる環境がとても良いと思います。先生はわかりやすく例えてくれるので難しいという印象はありません。授業では自分の体の中でどのような反応が起きてエネルギーになっているのかなどがよくわかり、これからも楽しみです。



同 2年 宇津木 忠悌

● 生体や研究に興味があったので、どちらでもできる応用生命化学科を選びました。先生が陽気で馴染みやすく、難しく思えるところでも学生にわかるように説明してくれます。これからは生体、体の中の仕組みを学んでいきたいと思っています。



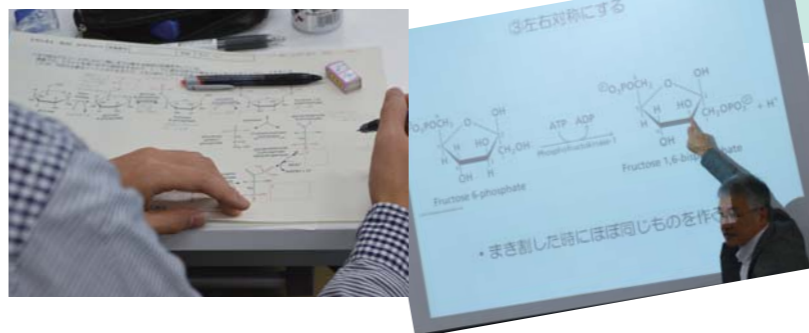
Welcome to 授業

農学部 応用生命化学科 生物化学 I

● 化学の側面から生物の生命活動を理解し、食品開発や環境問題の解決といった生命化学分野に応用していくことが本学科での学びの基本となります。この授業では、3大栄養素など、体の中にある主要な物質を化学的に理解するための基本を学びます。具体的には、高校の化学の教科書にも出てくる糖や脂質についてより詳しく学びます。また高校の生物の教科書で出てくる食べ物の消化吸収や、栄養素からのエネルギーの取り出し方などについても学びます。高校の化学と生物の接点に位置する講義です。小中高の講義の延長ですから、今まで勉強してきたことは決して無駄にはなりませんし、学びを深めるイメージが持てると思います。

例えば我々は砂糖を粉末として目で見ることができません。しかし、その細かい化学構造を容易に観察できません。化学式や構造式を使って、物質の特性を上手に頭の中にイメージすることが重要です。これが化学を嫌いになってしまう理由の一つだと思います。この講義では、覚えることより感覚的に生体物質（≒主要な栄養素）の化学的な特性や全体像を理解してもらいたいと思っています。「化学は難しいし、怖くない」ということを感じてほしいですね。

学生さんは食品会社や製薬会社など、生命化学の知識を利用する分野に職を得ることが多いので、その支えとなるような素養や化学的な感性を磨いてもらいたいと思っています。



研究 Keyword

「ロシア」「文学・文化」「香水」

国際学部国際文化学科 講師 大野 斉子



PROFILE
 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。専攻はロシア文学・文化。青山学院女子短期大学、東京大学非常勤講師を経て、現職。

国際学部国際文化学科 講師 大野 斉子

「ロシア」

私の研究分野はロシア文学です。ロシア文学の専門の研究者が扱う時代は中世から現代まで様々ですが、私は19世紀を中心に、実際には18世紀から20世紀までを射程に入れて研究しています。

ロシアは日本にとっては隣の国ですが、隣国という意識をあまり持っていない方は多いかもしれません。ロシアというとモスクワ、サンクトペテルブルクなどのヨーロッパ・ロシアのイメージが強いと思います。しかし、日本から海を隔てた向こう岸もロシアなのです。

現代の日本人とロシア人同士の直接交流はもちろん大事ですが、日露間には、長い文化交流の歴史があります。文化交流、研究を通じて、多層的な理解を試み続けるのも重要です。そのためにも少しでも役に立てればと思っています。

「文学」「文化」

私がロシア文学の道に進んだきっかけは、ドストエフスキーを読んだことです。ドストエフスキーは「暗い、重い、長い」



エルネスト・ボー (1881-1961年)

19世紀末ごろには、ロシアにはヨーロッパ最大の工場を持つ香水会社があり、それに連なる大会社が10社ほど存在し、中小の香水会社を入れると200を超え、製造所がありました。当時の先端的な技術を駆使して優れた香水が作られていました。

1917年のロシア革命でこれらの会社は国有化され、香水産業は事実上一挙に瓦解しました。大勢いた従業員や調香師(香水を作る技術者)はどうなったのでしょうか。ロシアに残る人、亡命する人など、彼らの運命は大きく分かれられました。

ロシアの最大級の香水会社であったラレ社の主任調香師をしていたエルネスト・ボーという人物は、フランスに移住して、「シャネルナンバー5」という有名な香水を作り、現代の香水に大きな影響を与えました。帝政ロシアの文化は、革命で生み出された200万人とも言われる亡命者を通じて世界中に接ぎ木されました。香水の歴史は、こうした問題とも繋がっています。

このほかにも香水や香りの人文学的領域での研究も行いました。香りの世界は奥が深く、まだまだ研究すべきことは残っています。今後も研究を続けていきたいと思っています。



文学は、作品だけ読んでいてもわからないことが多いのですが、関係する時代の歴史や社会背景などを勉強するほどにおもしろく読めるようになります。その意味で文学は複合的な性格を持っており、文学から出発して、関連する文化の研究に進む方は多いです。

香水の研究もその一つです。研究するなかで、ロシアの19世紀の都市文化が非常に洗練されていたことがわかり、その一つが香水でした。19世紀後半から20世紀初頭までロシアにあった大規模な香水産業が再発見されたのは近年のことです。ソビエト時代に、歴史は記憶しておくべきものと忘却の闇に葬られたものに分かれました。現在は、忘れられた歴史の再発見がロシア研究の領域では活性化していて、香水はその一端をなしています。

と思われていますが、軽やかなタッチの恋愛小説もありますし、長編にも犯罪小説のようなエンターテインメント性の強い作品が多くあります。ぜひ新訳などでチャレンジしていただきたいと思っています。私はドストエフスキーの研究をした後、ゴーゴリというドストエフスキーよりも少し前の時代の作家に関心を持ち、研究を続けています。ゴーゴリは、日本ではそれほど有名ではないかもしれませんが、ロシアでは庶民の間で人気の高かった作家です。ゴーゴリは幻想小説、民話風、戯曲など幅広いジャンルを手がけました。



ロシアの古都サンクトペテルブルクにある「エルミターージュ美術館」

一点ご紹介しようと、ある日、役人の顔からとれた鼻が首都ペテルブルグを人間のように動き回り、鼻を追う役人と珍事を繰り広げるという奇想天外な小説「鼻」があります。

私は、ゴーゴリは19世紀にどんなメディアで読まれたのか、という研究をしました。こういう問題設定をすると、19世紀のメディアの特徴、読者層、メディアが実現したネットワークなど、文学の出版と読書の現場が見えてきます。またメディアは、掲載される内容だけでなく、メディアが存在した社会のインフラ(郵便網や鉄道網)、教育制度や生活文化と深く関わっています。メディアの研究からこうしたことも見えてきます。つまりは、時代や社会の変化に応じてどのような文学の読まれ方が変わったのかということがわかってきます。

文学や芸術は、個人を超えた社会、集団の想像力を扱うことのできる芸芸です。些末な事柄も含めた日常をひとつの世界としてまとめあげているのは、想像力の領域です。文学を研究することで、世界を作っていたはずの想像力を作品から取り出していくことができるし、もしか



ゴーゴリの作品のイラスト・ブック



ロシア語の先生(左)と、サンクトペテルブルクで

の過度期のような時にも行ってみるものだなと後で思いましたね。

ロシアでは大学院生のレベルがすごく高く、ロシア文学を勉強するのにも、文学史一冊丸ごと覚えているかどうか、細かいデータまで覚えているかどうかというレベルで、基本的な勉強の仕方の違いも含めて私にはとても良い体験になりました。短期ではありましたが、留学を経て得た経験や認識は大きかったと思います。学術のあり方というのも、同じロシア文学でも、国によって伝統、文化が違うので、勉強のシステムもカリキュラムも違う、そういうギャップを承知した上で研究者として育っていく必要があると思いました。

博士論文を書いた後、次に何をしようかと思っていた時に、手にとった綺麗な写真集で「シャネル N°5」の香水を作った調香師が、ロシア出身のフランス人であったことを知りました。調べはじめたらとても面白くてこれは価値があるなと思い研究していくと、関心がますます広がっていきました。

宇大に着任してから6年目、おかげさまで昨年出版した著書『シャネルN°5の謎—帝政ロシアの調香師』(群像社)で「2016年度日本ロシア文学会賞」をいただきました。

大野 斉子

(取材・文/アートセンターサカモト・栃木文化社ビオス編集室)

混乱期のロシアに留学して

大学1年生の夏休みに時間があつたのでいろいろと小説を読んでいましたが、ロシア文学が一番おもしろいと思ったのです。主にドストエフスキーなど19世紀の文学ですが、やはり日本では人気があり、訳書もたくさん出版されていて、まとめて読むことができましたので、専門はこれで行こうと決めました。それからロシア語を勉強し始めて、3年生からロシア文学の専門課程に進みましたが、2年間はかなり厳しくみっちりやりましたね。

研究室は「スラヴ語スラヴ文学研究室」に入りました。ロシア文学が基本ですが、バレエや音楽などの文化関係も学びました。研究室に行けば事典類や新しい本があつて、図書館に行けばまた別な専門書があつてというふうに、大学は関心を広げていく環境が整っていたと思います。

ロシアには大学院1年生の時に初めて行きました。ソ連が崩壊して、ロシア連邦に変わって7、8年くらい経った混乱期でした。国の過渡期だったことがすごく印象に残っています。まだソ連時代の名残というか、文化的にも色濃い影響があつて、社会主義国独特の特徴というのがありました。買い物ひとつにしても日本と異なり、お店の人は誰にでも無愛想でおつりは投げて返しますので、日々の生活でカルチャーギャップを感じたものです。

その後ロシアには何度か行きましたが、今は生活に関わるさまざまなシステムが変わり、経済も大きく変わっています。国

わたしの学生時代

My Campus Life



宇都宮大学は、平成28年9月21日（水）に宇都宮大学峰キャンパスの大学会館多目的ホールにて市民公開シンポジウム「人と道路と雑草～道路にくらす雑草を科学する～」を開催しました。

本シンポジウムは、平成27年度に道路区域の雑草防除に関する協定を締結した国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所との共催によるもので、京都大学名誉教授の伊藤操子氏を招聘し、講演並びにパネルディスカッションが行われました。

シンポジウムには、一般市民や行政関係者ら約170名が来場し、雑草に関わる課題等について様々な意見交換が行われました。



「あなたにとって道路雑草とは何ですか？」をテーマにしたパネルディスカッション

市民公開シンポジウム 「人と道路と雑草」を開催

第65回関東甲信越大学体育大会での 本学学生の活躍

平成28年8月15日（月）から31日（水）にわたり、第65回関東甲信越大学体育大会が開催されました。本学学生269名が競技に参加しました。上位入賞者は以下のとおりです。

【団体戦】

優勝

- ・バレーボール女子（5年連続）
- ・バレーボール男子（2年連続）

準優勝

- ・ソフトテニス女子 第3位

- ・準硬式野球、バドミントン男子、バスケットボール女子



バレーボール部女子

【個人戦】

- ・ソフトテニス（女子）

準優勝 渡部 佳乃（農学部3年）、須藤 麻由（教育学部1年）ペア

陸上競技

- 男子走高跳 第1位 小森 翔太（教育学部3年）
第3位 鈴木 敦也（教育学部1年）
- 男子400m 第2位 川口 真司（工学部2年）
- 男子4×400mR 第3位 小池 翔（教育学部2年）
高瀬 雅仁（教育学部2年）
牧野 有恭（農学部3年）
川口 真司（工学部2年）

女子1500m 第3位 柳 好恵（教育学部2年）

女子やり投 第3位 野中 紗希（教育学部4年）

・水泳 男子200m平泳ぎ 第2位 村上 宏紀（工学部3年）

宇都宮大学地域デザイン科学部 開設記念シンポジウムⅠ 「『大地の学校』自然に学び地域を デザインする」を開催

宇都宮大学では、9月13日（火）に地域デザイン科学部開設記念シンポジウムⅠ「『大地の学校』自然に学び地域をデザインする」を開催しました。

本シンポジウムは、都市、農村、里山、奥山に至る多様なフィールドが広がる栃木の自然に学ぶとともに、持続可能で豊かな地域をデザインするため、これからの学びと研究、人づくり、実践的な活動はどうあるべきか等について考察することを目的としたもので、東京大学名誉教授で解剖学者の養老孟司氏やサクソ・クラリネット奏者でミジンコ研究家の坂田 明氏、ツインリンクもてぎ「ハローウッズ 森のプロデューサー」の崎野隆一郎氏、民謡民話美寿々会主宰の美寿々すみ子氏らによる講演や、講師の子ども時代の生活や自然との触れ合いの思い出などについて振り返ったパネルディスカッションが行われました。併せて、栃木県内高等学校の生徒が取り組む地域実践教育研究活動の紹介も行われました。

200人を超える会場の参加者からは、これからの時代にふさわしい新たな「地域の知の拠点」形成を目指して、新学部「地域デザイン科学部」の今後の教育研究活動に大きな期待が寄せられました。

なお、11月28日（月）には、宇都宮大学地域デザイン科学部開設記念シンポジウムⅡを開催することとしています。



パネルディスカッションの様子

本学バレーボール部女子は、第71回国民体育大会6人制成年女子の部で関東ブロック予選を突破し、岩手県で開催された本戦出場を果たしました。

予選では群馬銀行（群馬）など実業団を破って栃木県では史上初の本選出場を決め、注目度が高く期待されましたが、1回戦で西日本インカレ準優勝の鹿屋体育大学（鹿児島）と対戦し0-3（20-25、21-25、27-29）で惜敗してしまいました。

同部は、今回の経験を生かして、目標とする全日本インカレのシード権獲得に向け、関東大学1部秋季リーグに臨みます。



バレーボール部女子第71回国民体育大会 「2016希望郷いわて国体」出場

本学開発のロボットが「第7回ロボット 大賞（文部科学大臣賞）」を受賞！

本学工学研究科尾崎研究室、アイ・イート株式会社が共同開発したイチゴ収穫ロボットが、「第7回ロボット大賞（文部科学大臣賞）」を受賞しました。ロボット大賞は前回まで経済産業大臣賞のみでしたが、第7回から5つの省庁の大臣賞が新設され、文部科学大臣賞としてのロボット大賞受賞は本学が第1号となります。この「イチゴ収穫ロボット」は技術的にもユニークであり、完熟イチゴを傷めることなく収穫できるため海外輸出が可能になるなど、生産者にとってメリットが多い点が評価され、今回の受賞に至ったものです。



農学部生物資源科学科の松本浩道准教授が「2016年度日本繁殖生物学会賞・学術賞」を受賞しました。受賞対象研究は「マウスにおける胚の着床能力獲得および子宮側胚着床の分子機構に関する研究」です。

松本准教授は「哺乳動物の生殖機構の解明」を研究テーマとしており、今回の受賞は、「受精卵が胚盤胞という状態になり子宮に着床して妊娠が維持されるのには胚と子宮の側の相互作用が重要であり、その成立に新たな段階が存在することを明らかにした」ことなどが評価されました。

「生殖補助医療や家畜の増産に貢献できるのではないか」という思いで基礎的なところから研究を続けています。この賞は主にここ10年の業績が評価されるのですが、私が宇大にきたのがちょうど10年前。まさに宇大に来てからの業績で、同僚の先生方、研究室の学生さんたちとやってきたことが評価されたことが一番うれしい。これから動物生産への応用の研究を進めていきたい」と受賞の喜びを語りました。

日本の牛のほとんどは人工授精で生まれており、優れた肉質の黒毛和種の受精卵をホルスタイン種に移植して、乳牛から黒毛和種の子牛を生産する取り組みが行われていますが、受胎率が低いためあまり普及していない現状にあります。「これからの研究をこうした問題の解消に繋げていければと考えています」と話しています。



松本浩道准教授が「2016年度 日本繁殖生物学会賞・学術賞」を受賞

「THE世界大学ランキング」で 宇都宮大学がランクイン

イギリスのTES Global社は9月21日（日本時間22日）、「THE（Times Higher Education）世界大学ランキング2016-2017」を発表しました。当該ランキングにおいて、宇都宮大学は801+（801～978位）にランクインしました。

このランキングは、世界88か国の1万8千以上の大学を対象としており、世界で最も影響力のある大学ランキングといわれています。今回は、978大学がランキングとして発表され、わが国からは69大学がランクインしています。この中に宇都宮大学もランクインして、医歯薬系や理学系の学部を持たない大学としては大健闘と評価できます。

世界がグローバル化し、偏差値で大学を評価するのではなく、教育研究の質や内容を世界標準で評価する時代になってきた中で、今回のランクインは本学が世界レベルでの一定の教育・研究・国際性を有すると評価されたものです。

オプティクス教育研究センター 創立10周年記念式典を挙行

10月14日（金）14時より、陽東キャンパスアカデミアホールにおいて、オプティクス教育研究センター創立10周年記念式典・記念講演が執り行われました。当日は150名のご参加を得て、盛大に式典が開催されました。

式典では、石田朋靖学長から挨拶があり、来賓を代表して上野通子元文部科学大臣政務官、海老沼隆一キヤノン株式会社常務執行役員R&D本部副本部長、石崎宏明文部科学省研究振興局学術機関課学術研究調整官、赤松俊彦栃木県副知事、坂本健板橋区長からご祝辞を頂戴致しました。その後、谷田貝豊彦センター長からオプティクス教育研究センターの10年の歩みについて、大谷幸利大学院工学研究科先端光工学専攻長から専攻の設置について説明がありました。



第13回 「宇都宮大学ベストレクチャー賞」 受賞者が決定！

第13回宇都宮大学ベストレクチャー賞の表彰式が9月23日（金）に大学内で開催された「全学FDの日」において行われ、石田学長から受賞者に対し表彰状が授与されました。

- 第13回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者
- 国際学部専門教育科目 アンドリュー・ニール・ライマン
 - 教育学部専門教育科目 木下大輔 高島章悟
「生活科教育法」担当教員
 - 工学部専門教育科目 平田光男 東海林健二 石井清
 - 農学部専門教育科目 逢沢峰昭 蕪山由己人
 - 基盤教育科目 熊田禎介 黒後洋 湯本浩之
「農学部コア実習（森林）」担当教員

2016年11月19日(土)宇都宮大学第4回

ホームカミングデー

～お帰りなさい 宇大へ～

大学祭と同日開催! ぜひご参加ください!

卒業生の皆さまへ宇都宮大学の現状をご紹介しますとともに、同窓生や教職員との旧交を温めていただくためのイベントです。大学祭との同日開催なので、現役学生ともご交流いただけます。

◆◆◆◆◆ 国際学部主催の企画 ◆◆◆◆◆

- 13:30 ~ 受付(UUプラザ2階)
- 14:00 ~ 記念撮影
- 14:10 ~ 挨拶(学長、国際学部長)
- 14:20 ~ シンポジウム
- 15:10 ~ 学生サークル・団体の活動紹介
- 16:00 ~ 17:30 懇親会(5号館A棟4階大会議室)



◆◆◆◆◆ 教育学部主催の企画 ◆◆◆◆◆

- 10:00 ~ 受付(8号館教育学部正面入口)
- 10:30 ~ 挨拶(教育学部長、教育学部同窓会長)
- 10:40 ~ プレゼンテーション(8号館8D11教室)
- 10:55 ~ 教育学部同窓会の事業報告
- 11:00 ~ 学長挨拶、記念撮影、大学歌斉唱
- 11:30 ~ 施設紹介・施設案内
- 12:40 ~ 13:40 懇親会(8号館2階大会議室)



◆◆◆◆◆ 工学部主催の企画 ◆◆◆◆◆

- 12:30 ~ 受付(10号館エントランスホール)
 - 13:00 ~ 挨拶(学長、工学研究科長)、記念撮影
 - 13:10 ~ 同窓会補助事業に関する成果報告会
 - 14:00 ~ オプティクス教育研究センター光イノベーション紹介
 - 14:20 ~ 14:50 オプティクス教育研究センターツアー
 - 14:20 ~ 随時各学科おもてなしイベント(各学科棟)
 - 15:20 ~ 16:20 工学部同窓会総会(9号館1階911教室)
 - 17:00 ~ 19:00 懇親会(ホテルニューイタヤ)
- ※懇親会場へは、工学部正門16:30発のバスをご用意しております。



◆◆◆◆◆ 農学部主催の企画 ◆◆◆◆◆

- 9:30 ~ 受付(1号館エントランス)
- 10:00 ~ 学科出合いの会(1号館各研究室)
- 11:30 ~ 12:30 記念撮影、学長挨拶、学部長と語る会(1号館1E11教室)
- 13:00 ~ 15:00 ウェルカムパーティー(1号館大会議室)



◆◆◆◆◆ 事務OB・OG会 ◆◆◆◆◆

- 11:00 ~ 受付(本部棟3階第1会議室)
- 12:00 ~ 昼食会

◆◆◆◆◆ その他企画 ◆◆◆◆◆

- ・大学オリジナルグッズの販売(峰キャンパス生協)
- ・農場産品特別販売(峰キャンパス総合案内所協)

詳細およびお申込みはこちらへ (QRコードからもアクセス可)
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/graduate/homecomingday.php>



【お問い合わせ】企画広報課 TEL:028-649-8647



Band Stand うたう会

●「うた会ライブ」や定期演奏会の告知は、うた会Twitterをチェック! バンドスタンドうたう会Twitter(@utakai): <https://twitter.com/utakai>

「好きなときに、好きな曲を、好きな人と、好きなだけ演奏してます! 月1回、カバー曲を中心にみんなでライブします。他大学や幅広い年齢層の方とも交流がありますよ」と、サークルについて語るのは部長である農学部3年の朝重匡喜さん。サークルのモットーは「とにかく楽しむこと!」初心者も大歓迎で、朝重さん自身も大学から楽器を始めました。「先輩が色々教えてくれて、そこから仲が深まるのもほくらの強み。講習会を開き、楽器の基本的な使い方から教えます」先輩と後輩の仲の良さも伝わってくる。「本当に自由な雰囲気、先輩にタメ口の先輩もいますよ(笑) 自由な中に温かさもあり、私がいっているのかもしれませんがサークルの雰囲気は最高です(笑)」

毎月1回ライブハウス(宇都宮ハイドロックハウス)で「うた会ライブ」を開催。1月には恒例の定期演奏会がある。OB・OGの先輩方も参加する、一年で一番盛り上がる大イベントで、3年生にとってはサークル卒業のラストライブ。卒業する3年生は毎回感動で号泣するほど。彼らの想いを歌で感じてみたい方はぜひライブに足を運んでみてください。そして、仲間に入りたくなかった人はぜひ、サークル棟1階の部室に遊びに行ってみてください。先輩がドタバタにぎやかに歓迎してくれるはず!

楽しさから生まれる
新たな出会い



サークル & サークル

ネイチャーフレンド



【教育学部総合人間形成課程4年 菊地 和夏】

●ネイチャーフレンドウェブサイト: <http://natufriend.wixsite.com/naturefriend>

自然の楽しさ、不思議さを体験する

「自然はすべて繋がっている」、そう話してくれたのはネイチャーフレンドで広報担当を務める教育学部4年の菊地和夏さん。

自然環境を守り、次の世代へ伝えていく環境教育活動を目的としたネイチャーフレンドでは年4回の宿泊活動、月1回の外部活動を行っている。実はこのサークル、宇都宮大学の学生だけでなく小学生から高校生、社会人まで参加できるのが特徴である。活動は主に学生がイベント開催までの企画を行う。毎年夏に行われるキャンプでは子どもたちから一からテントを作らせるなど、自然のなかでも自ら行動する力を育ませる。ネイチャーフレンドで培った社会性や経験は普段の生活にも活かすことができる。また、自然の中で子どもたちと観察・実験を行うことで普段の生活に充実感が生まれる。

自然環境が変わりつつある今、私たちに何ができるか聞いてみると菊地さんはこう答えた。「何かをやるうとしなくても自然の変化に気付ける人になつてほしい」と。

現代社会、日々のストレスで自然に触れ合う機会が減ったそのあなた、ネイチャーフレンドがいっしょにお待ちしています。

INFORMATION

第13回学生&企業研究発表会

宇都宮大学のほか、県内大学の学生による地域の活性化に繋がる研究や、人間生活の向上や改善に関する研究成果の発表を通じ、地域における学と学との交流、並びに、産学官交流を図ります。

主催：大学コンソーシアムとちぎ・学生&企業研究発表会実行委員会
産学官連携サテライトオフィス事業委員会
地域連携事業委員会

日時：平成28年11月26日（土）9：00～17：15

会場：宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス
宇都宮市大通り1-3-18

問い合わせ先：産学官連携サテライトオフィス
TEL/FAX：028-667-0001
E-mail：satellite@consortium-tochigi.jp

宇都宮大学地域デザイン科学部 開設記念シンポジウムⅡ 宇都宮大学防災シンポジウム ～地域防災における地方大学の文理融合的取り組み～

主催：国立大学法人宇都宮大学
共催：一般社団法人国立大学協会
後援：国土交通省関東地方整備局、栃木県、土木学会関東支部栃木会、株式会社下野新聞社、NHK宇都宮放送局

日時：平成28年11月28日（月）13:30～16:30

会場：栃木県総合文化センター サブホール

第1部：基調講演

- 1) 「平成28年度熊本地震の被災経験を踏まえた教訓と地域連携の取り組み」
熊本大学 教授 松田泰治 氏
- 2) 「鬼怒川における水防災意識社会の再構築に向けた取り組み」
国土交通省関東地方整備局 下館河川事務所長 里村真吾 氏
- 3) 「栃木県の防災の取り組みについて」
栃木県 県土整備部 次長 江連隆信 氏

第2部：地域デザイン科学部における文理融合型の取り組みについて

- 1) 「地域コミュニティにおける防災と協働」
コミュニティデザイン学科 教授 中村祐司
- 2) 「環境防災情報システムを活用した地域再創生」
建築都市デザイン学科 准教授 横尾昇剛
- 3) 「地域／組織における防災訓練のあり方」
社会基盤デザイン学科 准教授 近藤伸也

全体討論 コーディネーター：山岡 暁（社会基盤デザイン学科 教授）

申込・問い合わせ先：国立大学法人宇都宮大学 地域デザイン科学部総務係
TEL：028-689-6233 FAX：028-689-6235

**第68回宇都宮大学
峰ヶ丘祭** **愛
NEED
友**

**日時：2016年11月19日（土）
20日（日）
10:00～18:00
（20日は19:00まで）**

**会場：宇都宮大学峰キャンパス
問い合わせ先：宇都宮大学大学祭実行委員会
TEL:028-634-5877**

第68回峰ヶ丘祭オープニングパレード（学生主催）

日時：11月12日（土）12：00～（予定）

※宇都宮大学から宇都宮市内をパレードし、大学祭のPRを行います。

問い合わせ先：宇都宮大学峰ヶ丘祭実行委員会
TEL：028-634-5877



峰キャンパス

国際学部／教育学部／農学部
〒321-8505
栃木県宇都宮市峰町350
（代表）028-649-8172



陽東キャンパス

地域デザイン科学部／工学部
〒321-8585
栃木県宇都宮市陽東7-1-2
地域デザイン科学部
（代表）028-689-6233
工学部（代表）028-689-6005

企画・編集

宇都宮大学 UUnow 第41号編集委員

編集委員

中野 達也	地域デザイン科学部准教授
古村 学	国際学部准教授
陣内 雄次	教育学部教授
小池 正史	工学研究科准教授
飯山 一平	農学部准教授
加藤 丈雄	企画広報課職員
渡邊 文彦	企画広報課職員
五月女優子	企画広報課職員

取材アシスタント

岡田愛未羽	工学部4年
大森 悠司	地域デザイン科学部1年

発行責任者

藤井佐知子	理事（企画・広報担当）
-------	-------------

編集協力

アートセンターサカモト・栃木文化社ビオス編集室

■ 企画広報課では、皆さまの声をお待ちしております。

ご意見・ご要望などをお寄せください。

【宛先】宇都宮大学 企画広報課

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL：028-649-8649/FAX：028-649-5026

E-mail：plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



宇～太、Twitter やってます！

@uuta_uuchara

宇～太オリジナルLINEスタンプ

「宇～太のキャンパスライフ」発売中！

